

社会に学ぶ『5DAYSチャレンジ』

—三好町立三好中学校—

1 学校および地域の概要

本校は、三好町の南西部に位置し、町の中心部にあたる。農業が盛んで、柿・梨・ぶどう園が学校の周囲に多く見られる。全校生徒数434名、全14学級（3年生4学級、2年生4学級、1年生4学級、特別支援学級2学級）の中規模校である。校訓「たくましく うるわしく かがやかしく」のもと、「自主、創造に富み、個性豊かでたくましく、誠実な人間の育成」を教育目標としている。

創立60周年を迎える、町内では一番伝統がある学校である。校区には3つの小学校があり、その児童のほとんどが本校の生徒となる。

2 活動の紹介

(1) 実施日

平成20年9月8（月）～12日（金）

(2) 参加生徒数

第2学年 151名

(3) 受入先及び活動人数(全70事業所)

事業の種類	事業所数	活動人数	事業の種類	事業所数	活動人数
農業	3	6	金融・保険業	0	0
林業	0	0	不動産業	0	0
漁業	0	0	飲食店、宿泊業	22	34
鉱業	0	0	医療、福祉	6	9
建設業	0	0	教育、学習支援	20	46
製造業	4	8	複合サービス事業	1	1
高熱水事業	0	0	その他サービス業	13	23
情報通信業	3	5	公務	3	5
運輸業	2	3	分類不能の産業	0	0
卸売・小売業	17	27	計	94	167

※活動人数が参加生徒数の151人を越えているのは、5日間のうち2つの事業所を経験したため。

(4) 活動日程と概要

[事前学習]

- 5月
- ・総合「職場体験ガイダンス」（職場体験の様子と職場体験のねらいを知る）
 - ・総合「新聞から職業を探そう」（新聞から仕事に関する内容を切り抜き、分類する）
 - ・総合「興味ある事業所の調査」
 - ・総合「職場体験の目標を考え、さらに保護者の願いを知る」
(生徒が考えた目標に対して保護者からコメントをもらう)
- 6月
- ・学活「職業の特色について考えよう」（自分の関心ある職業は、何を相手にし、どんな環境で働く職業を考える）
 - ・総合「あなたはどんな人？」（自分がどんな性格なのかを理解する）
 - ・道徳「いいところあるじゃん」（級友から自分の良いところを書いてもらい自己理解を深める）
 - ・総合「自分にあった職業を考えよう」（職業適性検査などから自分にあった職業を考える）
 - ・総合「職場体験先希望調査」（自分の興味・適性を考えて体験先を決める）

- ・総合「関谷さんの話を聞く会」（本校卒業生の実業家の方から職場体験での心がまえや働くうえで大切なことを学ぶ）
- ・総合「事業所と電話で打ち合わせ」（受け入れの確認、事前訪問日と時間の打合せをおこなう）
- ・学活「人はなぜ働くのか」（働く意義について考える）
- 7月 ・総合「自己紹介カードを作ろう」（自己理解を深めるとともに、体験向け）
- ・総合「事業所について調べよう」（場所、仕事の内容、事業で貢献すること）
- ・総合「3年生に話を聞く会を開こう」（昨年の様子を3年生から聞く）
- 8月 ・事前訪問（活動時間、活動内容、持ち物などを確認する）
[事後学習]
- 9月 ・総合「職場体験をふり返ろう」
（仕事内容、話したこと、できたこと、できなかったことを感想文としてまとめ、冊子にし、事業所へ配布する）
- ・総合「お世話になった事業所の方にお礼の手紙を書こう」
（お礼の手紙を書き、事業所へ届け、お礼を述べる。発表会の案内状を渡す）
- 10月 ・総合「発表会の準備をしよう」（活動の様子をポスターにまとめ、発表原稿を作成する）
- ・総合「発表会を開こう」（職場の方、保護者、1年生を招待して発表会を行う）



＜関谷さんの話を聞く会の様子＞

(5) 参考となる取り組み

多くの教師や保護者ボランティア、事業所の方と関わるなか、励ましの言葉を頂くことで、自己有用感を獲得することができると考え実践を行った。

- ・事前学習の際、学級活動・道徳・キャリアカウンセリングなどで、働く意義や職業適性、勤労観を考える時間を十分に確保して職場体験に臨むようにした。
- ・学級担任以外の全校職員による、ゲーム的要素を取り入れた人間関係作りのエクササイズ（対人関係のスキルを学んだ）を行い、学校全体でサポートする体制を作った。
- ・保護者ボランティアを募り、事業所へ保護者・教師による訪問を行った。また事前に保護者ボランティアへの説明会を行った。
- ・事業所の方、保護者、教師による励ましのお便りを毎日発行し、各事業所で活動している生徒に届けた。
- ・発表会では、2年生の保護者だけでなく、事業所の方や1年生を招いた。



＜人との出会いが学びを深める＞

3 成果と課題

(1) 成果

- ・本年度はメンタル的な目標と、その事業所で何を課題として追求してくるか、この2点を意識して事前学習やキャリアカウンセリングの充実化を図ることで、生徒が明確な目標をもって職場体験に臨むことができた。
- ・あいさつや言葉遣い、約束を守ることなど、厳しい職場のなかでその大切さを実感し、それを今後の学校生活や日常生活において生かしていこうと思う生徒が増えた。
- ・毎日の5DAYSチャレンジ通信の発行、巡回ボランティア保護者の増加、保護者によるお願いやお礼の文書、教師による事前の趣旨説明などによって、事業所の学校への理解や協力が深まった。また、生徒と保護者の会話も増え、親子のコミュニケーションの場が増えた。

(2) 課題

- ・職場体験中は、集団のなかでいかに自分の力を発揮するかを考えた生徒たちであったが、学校生活と切り離して考えてしまう生徒もいた。学校の授業、学級における集団生活などが、将来の自分を設計するうえで大切であることを職場体験と結びつけて考えられるようにしたい。

「生き方を考え、社会に学ぶ職場体験」

— 設楽町立設楽中学校 —

1 学校および地域の概要

本校は山林に囲まれ、8年前に旧設楽町の3中学校が統合して開校された学校ではある。この地域では、トマト栽培などの農業、ニジマスを中心にした養殖業、林業といった自然を生かした産業、そして、地域の恵まれた水から生まれた清酒の製造業などが盛んである。

本校の総合的な学習の時間では1年生時に『名人に学ぶ』という内容で、地域で一芸を有する方々を訪問し、その技について学んだ。2年生ではこの経験を生かし、次の2点から職場体験を計画した。

(1) グループ体験活動(1日)

町内の事業所(6カ所)を5~7名で体験し、地域のよさを生かした仕事を体験する。

(2) 個人体験活動(2日以上)

将来の自分の姿をイメージし、自分の特性や生き方を考えた仕事を主に東三河地域で体験する。

2 活動の紹介

(1) 実施日 ① グループ体験活動 平成20年8月4日(月)

② 個人体験活動 平成20年8月5日(火)~25日(月)

(2) 参加生徒数 第2学年 36名

(3) 受入事業所数及び活動人数

(事業所はグループ体験と個人体験と重なるものを含む、人数は延べ人数)

事業の種類	事業所数	活動人数	事業の種類	事業所数	活動人数
農業	3	10	医療、福祉	4	11
林業	2	7	教育、学習支援業	6	6
漁業	1	5	その他のサービス業	5	8
製造業	2	7	公務	4	4
飲食店、宿泊業	1	1	計	33	74
卸売・小売業	5	15			

(4) 活動日程と概要

月	活 動 内 容 (○時間)	留意点
4	【オリエンテーション】① ・1年生の活動について振り返り、職業レディネステストやエゴグラムの特徴から自分の職業適性について考える。	資料を活用しながら生活年表にこれからの進路を書き入れる。
5 6 7	【仕事の話进行こう】③ ・家族からの聞き取り調査から働くことの意味や職業選択の条件を考える。町内や新城市の事業所から講師を招き、仕事の特色やよさ、働くことの意味などについてとらえる。 【自分の仕事を考え、職場体験の計画を立てよう】④ ・適性検査や聞き取り調査、職業講話などから、自分が体験したい職場の行き先を決め、活動計画をグループや個人で検討し、計画を立てる。計画をもとに体験先と日時等の打ち合わせを行う。(グループ・個別体験)	町内の講師はグループ体験先の6事業所。体験は職員のアポ取り後、各自で計画・打ち合わせ等の対応をまとめる。ハローワークの担当者の話から、若者の仕事への取り組みの実際の状況や職場体験の注意事項をとらえる。

8	【職場体験をしよう】⑱ ・各事業所に合わせて、体験活動を行う。終了後、活動の様子を記録する。 (3日間以上)	担当は事業所を回り、お礼と視察、写真等記録を残す。
9 5 10	【体験の整理と発表計画を立てよう】⑲ ・職場体験について、発表の仕方をイメージしながら、体験活動のあらましをレポートの様式にまとめる。また、計画に従い、お互いに評価し合いながら発表の内容や仕方を修正し、報告会に生かす。	自分の体験をまとめるとともに、事業所に礼状を書く。プレゼンテーションの準備を行う。
11	【学校祭で発表しよう】① ・学校祭で活動を報告する。お互いの体験の内容を聞きあう。	体験先の方も招待する。
2 3	【自分の将来を考えよう】⑤ ・自分の生き方、職場で学んだこと、職場で生きる人たちの姿勢について学んだことを整理する。また、仕事と夢についての話を聞く。職場体験で得たものを考え、自分の進路を広い視野に立って考える。	職場体験と自分の将来について整理してまとめる。職業適性検査などを参考にする。

(5) 参考となる取り組み

- ・ グループ体験活動を先に行い、個人体験活動を後に行うことで、体験先との調整およびレポートや発表内容の整理についてスムーズに取り組むことができた。
- ・ 職場体験を通して、「生きがい」「礼儀」「勤労の尊さ」「充実した生きかた」など、道徳の授業と関連させて取り組むことで、自分の生き方への意識を高め、よりねらいに迫ることができた。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・ グループ体験と個人体験を組み合わせることにより、地域の特色を生かした仕事、自分の将来を見据えた仕事の二通りの体験を行うことができ、生徒にとって自分の生き方を考える機会となった。
- ・ 活動内容と連携させた講師を招聘することにより、仕事について理解が高まり、意欲的な体験活動につながった。
- ・ 3カ所以上の事業所を体験した生徒も生まれ、将来の職業に興味や理解が深まった。

(2) 課題

- ・ 地域性から、事業所の数や事業所に出かけていく交通手段が限られている。そのため、保護者に送り迎えをしていただく生徒がほとんどであり、3日間になったことで、負担が増え、期日や種類に制約が生じている。
- ・ 2カ所以上の事業所を選択するため、準備や訪問、体験活動の発表などを期間内に急いで行うことになり、余裕がなかった。

今後も生徒一人ひとりに対応できる体験のあり方を探っていきたい。



【福祉施設で体験した生徒のレポートから】

わたしは、6月の職業講話で介護師の方のお話を聞き、福祉の仕事に興味をもちました。介護師の方が、「障害のある人も、普通の人と同じで一生懸命に生きている」という言葉が、とても心に響き、この事業所を選びました。
 …午後からは身体障害者の方と交流をしました。ここでは、知り合いの人がたくさん働いていて、福祉介護師の仕事を身近に感じました。
 …上手にしゃべれない人とコミュニケーションをとるのはとても難しく、会話が続き、気まずい沈黙になってしまいました。しかし、入居者の方から話しかけてもらったときは、とてもうれしかったです。…(略)

職 場 体 験 学 習

～「あいち・出会いと体験の道場」の推進～

—東栄町立東栄中学校—

1 学校及び地域の概要

本校は、愛知県東部に位置し、豊かな自然と文化に包まれた人口4,300人ほどの東栄町にあり、全校生徒84名の唯一の中学校である。地域は過疎化が進む一方で、人々は町内の小、中学生に将来の地域を担い、残ってほしいという期待をもっている。こうした状況の中、本校では職場体験学習が以前から行われており、生徒一人ひとりが将来に対する見通しをもてるよう、積極的に活動をしてきた。

昨年まで、総合的な学習の時間（「共生タイム」という）と、教科、道徳、特別活動を関連づけ、有機的に働くようにカリキュラムを編成し、職場体験を第3学年に組みこんだ学習を展開してきた。しかし、新学習指導要領により、総合的な学習の時間が削減されるため、第3学年での実施が難しくなることが分かった。そこで、本年度は総合的な学習の時間のカリキュラムを修正し、第2学年で職場体験学習を実施することにした。

2 活動の紹介

(1) 実施日 8月1日（金）～8月10日（日）の数日間

(2) 参加生徒数 第2学年29名（男子10名、女子19名）

(3) 受入先事業所数及び活動人数

事業の種類	事業所数	活動人数
卸売り・小売業	9	11
飲食店・宿泊業	3	4
医療・福祉	1	2
教育・学習支援業	2	4
複合サービス業	1	1
その他サービス業	2	3
公務	2	4

(4) 活動日程と概要

[事前学習]

6月 オリエンテーション、活動の流れの把握

- ・ 職業調べ
- ・ 自分の興味、関心に基づき、就きたい職業、体験したい職業しぼってみよう
- ・ 職場体験学習でどんな活動をしていきたいか見通しをもとう

7月 活動の計画を考える

- ・ 事業所へ体験の依頼をしよう（電話、手紙など）
- ・ 事前に分からない点や質問、体験したい点などをはっきりさせよう
- ・ 職場体験先の職業について事前に調べよう

8月 職場体験学習

[事後学習]

9・10月 体験をまとめる。

- ・ 何を学んだか考えよう。
- ・ 今の自分の生活に何が生かせるかを考えよう。
- ・ 自分の将来について考えよう
- ・ 文化祭で発表するために、分かりやすくまとめよう

11月 文化祭で紙面発表

(5) 参考となる取組

自分の生まれ育った町のよさや課題を知るためにも、職場体験に行く地域を町内または近隣の市町村に限定し、そのなかで体験したい職業を選ばせることにした。

1事業所に1名で職場体験学習をしようと指示をし、できる限り少人数で、じっくり体験できるようにした。

生徒に職場体験学習をやってみたい事業所を出させ、教師が事前に連絡を取り、受け入れてくれるかを確認した。その後の打ち合わせは、生徒自身の活動を支援し、主体的な活動ができるように心がけた。

職場体験学習のまとめは、パソコンを使った。生徒は、1年生の3学期に、技術科でパソコンの学習をしているので、獲得した知識、技能を活用させる場面とした。

3年生では、3年間の共生タイムの活動のまとめを行い、自分自身を見つめるよい機会となっている。



【人命救助の模擬体験をしている場面】

3 成果と課題

(1) 成果

- ・ 職場体験学習を通して、あいさつの大切さ、職場の方や家族の温かさ、人の命の重さ、働くことの意義といった道徳的な価値観に改めて気づき、今の自分の生活に生かそうという気持ちが高まった。
- ・ どんな職業でも、普段、目にしないような仕事がたくさんある。働いている人は、それらを、細心の注意を払い、人のためになるようにと気を配り、さらに効率よく行っていることに気づくことができた。
- ・ 数日間に渡って職場を体験できたことで、仕事の内容だけでなく、働いている人の気持ちや、自分自身のことにも目を向けることができた。
- ・ 3年生になり、もう一度、職場体験学習をやってみたいという生徒がいた。
- ・ 仕事は、楽なことばかりではないことに気づくことができた。

(2) 課題

- ・ 事業所数が少ない地域であるため、将来、就きたい職業を考えている生徒には、その仕事を体験させたいが、地域を限定してしまうと、体験できないことがある。
- ・ 地域に帰ってくる人材を育てるためには、農業や林業にも興味をもたせる活動を1,2年生から行う必要がある。

職場体験学習を通して自分の生き方を見つめよう

—豊根村立豊根中学校—

1 学校及び地域の概要

本校は愛知県北東部、長野県と静岡県との県境に位置する。全校生徒19名（1年生2名、2年生9名、3年生8名）の小規模校である。ほぼ全員が志高寮で寮生活を送っている。生徒は大変純粋でまじめな生徒が多く、様々な活動に熱心に取り組んでいる。地域住民の方々も学校教育に大変協力的で、スポーツ祭や文化祭に参加していただいたり、寮の活動であるナイトサークルなどの講師を快く承引していただいている。

2 活動の紹介

(1) 実施日 平成20年8月3日（日）～8月8日（金）のうちの3日間

(2) 参加生徒数 第2学年9名

(3) 受け入れ先事業所数及び活動人数

①建設業	(1事業所 1人)
②小売、卸売業	(1事業所 1人)
③飲食・宿泊業	(1事業所 1人)
④医療・福祉	(2事業所 2人)
⑤複合サービス業	(1事業所 1人)
⑥その他のサービス業	(3事業所 3人)



(4) 活動日程と概要

【事前学習】

①1年生時

5月 ・進路適性検査の実施

12月 ・職業講話【講師：芳賀康宏さん（横浜ゴム株式会社新城工場）】

- ・ 企業が求める人材像
- ・ 就職に向けての心構え
- ・ 仕事、職場の様子

②2年生

5月 ・働くことの意義についての学習

・ 職業調べ

・ 進路適性検査

6月 ・職場体験学習ガイダンス

・ 職場体験学習先希望調査

・ 電話のかけ方指導

・ 事業所への連絡（教師、生徒）、訪問計画書の作成

7月 ・保護者会での説明（保護者同意書提出）



- ・訪問先正式決定
- ・職場体験学習におけるマナーなど指導

8月 ・職場体験学習実施

【事後指導】

8月 ・お礼状作成

9月 ・職場体験学習レポート作成

12月 ・職業講話 講師：【高本紀子さん

(ナチュラルホテルエルセラーン企画部課長)】

- ・ 仕事の実際
- ・ ホテル業界が求める人材像
- ・ 就職に向けての心構え



(5) 参考となる取り組み

- ・受け入れ先については生徒の希望を尊重し、保護者との相談の上決定し、学校から自分で依頼の電話をさせた。
- ・職場体験学習を見据えて、4月から学活や総合的な学習の時間の中で、「働くことの目的と意義」、「職業調べ」などの学習をさせた。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・この職場体験学習を通して働くことの大変さを身にしみて感じると共に、働いている人々と触れあったりお客様と接したりすることで、社会のルールやマナーの大切さ、礼儀、丁寧な言葉づかいの大切さを身をもって学ぶことができた。職場体験学習を終えてからの学校生活においても一層これらのことを意識して生活するようになっている。
- ・自分が将来希望する職種を体験した生徒にとっては、これからその職業をみざすために、自分がどのようなことをしていけばいいか考えていく良いきっかけになった。
- ・巡回した多くの事業所で、進んで仕事に取り組む姿におほめの言葉をいただくことが多かった。責任をもって仕事に取り組める生徒も多く、学校生活とは違う積極的な姿や表情をみせる生徒もいた。
- ・この中学生の職場体験学習も徐々に社会に浸透してきつつあり、各事業所でもどういったことを中学生に体験させようかということを計画的に考えていただいております、受け入れ態勢が整っている事業所が増えている。

(2) 課題

- ・公共交通機関がないため、職場までの交通手段は保護者の送迎をお願いしなくてはならない。そうするとどうしても新城・豊橋方面の事業所への訪問は難しくなり、村内の事業所に限られてしまう。しかし村内には事業所が十分でないため、本当に体験したい職業を体験することができない生徒が出てしまう。
- ・長期の受け入れが難しい事業所も多く希望の日数が体験できない場合があった。できれば3日以上での体験期間は確保したい。

「 Let' s Challenge インターンシップ 」 ～ 職 場 体 験 学 習 ～

—宝飯郡小坂井町立小坂井中学校—

1 学校及び地域の概要

校訓『自主』を60年程受け継いできた小坂井中学校は、三つの鉄道（三つの駅）と国道1号線が通る交通至便な人口約2万2千名あまりの町のほぼ中央に位置している。現在学級数19、生徒数625名の学校である。

平成17年度より、東三河地方教育事務協議会より研究委嘱を受け、生活指導を中心に研究活動が進められた。平成19年度には、「よりよい生活をつくる生徒の育成」というテーマで研究発表を行った。研究の成果もあり、生徒たちは、自分たち自身で自分たちの生活をより良くしていこうという意識が高く、委員会活動や学校行事も生徒の手で創りあげるなど、主体的な取り組みができる。また、伝統的に部活動が盛んで、運動部・文化部ともに活発に活動し、成果をあげている。

2 活動の紹介

(1) 実施日

事前訪問 9月25日（木）
職場体験学習 10月 8日（水）・9日（木）



大型スーパーでの職場体験の様子

(2) 参加生徒数 第2学年 210名

(3) 受入先事業所数及び活動人数

事業の種類	事業所数	活動人数	事業の種類	事業所数	活動人数
農業	4	4	金融・保険業	0	0
林業	0	0	不動産業	0	0
漁業	0	0	飲食店、宿泊業	24	24
鉱業	0	0	医療、福祉	11	17
建設業	2	2	教育、学習支援業	24	48
製造業	13	13	複合サービス業	1	1
光熱水事業	0	0	その他サービス業	23	23
情報通信業	0	0	公務	6	11
運輸業	6	6	分類不能の産業	0	0
卸売・小売業	86	86	計	200	235

(4) 活動日程と概要

- 4月、5月 職業学習「私のしごと観」への取り組み
 ・職業調べ ・バスレク ・事前指導 ・マナー ・係の仕事など
- 5月31日（木） 職業学習「私のしごと観」
 京都「私のしごと館」での職業体験、職業についての学習
- 6月、7月 職業学習のまとめ
 職場体験学習にむけての取り組み
 ・職場体験オリエンテーション（職場体験学習の目的・心構え・個人目標・テーマ決め） ・希望調整 ・受入交渉 ・事業所&職業調べ
- 9月 事前訪問指導
 マナー教室（あいさつ、言葉遣いの練習）
- 9月25日（木） 事前訪問

10月8日(水) 9日(木) 「職場体験学習」

10月、11月 職場体験学習のまとめ

- ・お礼の手紙の作成
- ・職場体験学習まとめ作成

12月、1月 立志関連行事への取り組み

- ・立志関連行事「チャレンジウォーク」オリエンテーション
- ・歩行コース決定
- ・班作り

2月 13日(金) 立志関連行事「チャレンジウォーク」

2月 チャレンジウォークのまとめ

立志式に向けて

3月 12日(木) 立志式

- ・立志にかける思い
- ・講演会

(5) 参考となる取り組み

- ・ 事業所希望調査の前に、ハローページを各教室に置いたり、小坂井町企業名の一覧表や昨年度の事業所一覧を拡大コピーして廊下に掲示したりして、情報提供を行った。また、学年だよりや学年集会で職場体験学習の取り組みについて知らせ、家庭の協力も呼びかけた。
- ・ 一人一事業所を原則として活動を行ったことで、人に頼りがちで消極的な生徒も、受け入れ交渉の場面では自分で考えて行動するなど、自主性を高めることができた。
- ・ 事業所向けアンケートを実施し、生徒の活動の様子、変容などを知らせていただくとともに、本年度の成果と課題を見出し、来年度への職場体験学習に生かせるようにした。
- ・ 事業所向けアンケートを事前訪問時に生徒に持たせ、活動最終日に生徒が受け取ることができるようにしたことで、アンケートの集約が素早くできた。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・ 昨年に引き続いての一人一事業所を原則とした取り組みだったので、昨年の本校のデータベースを活用して効率よく希望調査や集約を行うことができた。
- ・ 1学期中にはほぼ全員が自分の力で事業所を決めることができたので、夏休み中に正式依頼文書の作成・発送作業ができた。
- ・ 電話交渉や事前訪問、当日の体験活動などを通して、時間を守ることの大切さだけでなく、あいさつやその場に応じた言葉遣いも、身につけることができた。事業所の事後アンケートでは、「大変積極的にできた」、「積極的に活動できた」という回答を合わせると、9割を超えているので、事前訪問も含め、主体的な活動が行えたと言える。
- ・ 職場体験学習のまとめから、職業の厳しさや喜びなどを味わえていることが伝わってきた。また、将来に向けて具体的な目標をもったり、学んだことを日々の生活に役立てようとしたりする姿勢も見られるようになった。



自動車販売所での職場体験の様子

(2) 課題

- ・ 定休日が活動日の中に入ってしまう、事業所を二つ探さなければならない生徒が多くおり、大変苦労した。また、事業所のアンケートにも連続3日間は最低必要という意見も多くあり、日数については今後の検討課題である。
- ・ 事業所への折衝を最初に生徒が行い、その趣旨も説明したが、理解しにくい面もあるようなので、折衝の手順については検討していく必要がある。